

(聞き取り記録 3) 松原希美さんからの聞き取り記録

岡田京子さんは、松原希美さん(73)と亡くなった清司さんの間に生まれ、ひとりっ子で育った。希美さん、清司さんは田舎の山村で生まれ育った従兄妹同士だった。

希美さんによると、「京子は、軽度の知的障害があり、幼児期には専門病院に通っていた。小学校入学に合わせて、家族で別の街に引っ越した。教育委員会からは特別支援学級を進められたが、中学校卒業まで通常学級で過ごした。学校の成績はよくなく、友達も少なく、中学校のころにはいじめも受けた」とのこと。

また、「京子は中学校を卒業し、専門学校に行くことになったが、専門学校の勉強もついていくことができなかった」「専門学校を卒業した後は、アルバイトをしたが長くは続かず、半年ぐらいで転々とした」この頃から、希美さんがパート勤めをはじめ、京子さんはアルバイトをしない期間は、家の家事を手伝ったとのこと。そんな折、京子さんが24歳の頃、宗教を通じて正雄さんと出会った。

希美さんも清司さんも、「京子が正雄さんと付き合うことには大反対したが、京子が妊娠したことで結婚を許し、結納から披露宴、入籍の届けまで(希美さんが)すべて取り仕切って行った」「結婚後は、(希美さん清司さんと)同居して、京子の苦手な家事や育児を手伝った」とのこと。

晴美さんが生まれたが、言葉が遅かったため、心配した希美さんが晴美さんを病院に受診させると、知的な遅れがあると言われた。

半年前、家族思いだった清司さんが76歳で病気で他界した。そのことをきっかけに、京子さんは、正雄さん、晴美さんと一緒に家を出て、近所のアパートに引っ越した。

「アパートに引っ越してから、京子は薬も自己管理となり、定期的な服薬が崩れた。そして、晴美が就労継続支援 B 型事業所みなみの通所拒否となった。わたしが手伝わなければ、自分一人では家事も子どもの世話も一人でできないのに」と、京子さんを責めるように話した。